

「私、ミカエラ・マレロード・リアルータはユキノ・ベルフォードとの婚約を破棄し、聖女アマリスとの婚約をここに宣言する！」

富を示す金色の美しい髪を靡かせ、まだあどけなさの残る少女を抱き、私の元婚約者は高々に剣を掲げた。

わあっと会場は盛り上がり、聖女と呼ばれた少女は泣きながら、ほっとしたように元婚約者・ミカエラへと身体を寄せる。

ミカエラは誓いを示す剣を降ろすと、階段の上の玉座に座る皇帝を見やった。

「それで構いませんね、父上？」

「……………」

「お、お、お待ちくださいませ陛下！！わたくしは——！！」

「ええい黙れ！！」

皇帝はじいっと冷たい目で見下ろし、私は“決められた”セリフを言い放ち、私を取り押さえた衛兵によって地面へと叩きつけられる。

そして、皇帝の口から紡がれる。

「皇太子ミカエラと聖女アマリスの婚約を認める。

そして唯一神アモーリアの名のもと、謀反を企てた大罪人、ユキノ・ベルフォードは流刑に処す」

「そんな……！！あ、あんまりですわ、は、離しなさい！！わたくしを誰だと心得る！離せ！離しなさいよおおおおおッ！！」



「……………はあ」

月明かりがわずかに差し込む冷たい牢屋で吐いた息は、白くなって消えていった。

不幸な交通事故でぼっくり逝って、生前プレイした乙女ゲームの悪役令嬢に転生してもう何年経つだろうか。

私が転生したゲームでは、ヒロインは千年前の聖女の生まれ変わりとして貧しい村から王都へ派遣され、攻略キャラクターと成長しながら恋をする。

しかしどのルートに行っても必ず、悪役令嬢である私ことユキノの妨害にあう。

今現在進んでいる、パッケージを飾る王子様である皇太子、ミカエラルートではミカエラは傲慢なユキノにうんざりしていて、純新無垢な聖女と惹かれ合う。

だけど聖女は処女であることが求められるため、子を成さなければいけないミカエラとの恋は叶うはずがなかった。

しかし聖女を嫌う私が海賊と手を組み、私との結婚式で聖女を攫う予定だったものの、妨害にあって私の目論見が崩れ、私はお縄に、ミカエラと聖女は苦難を乗り越えて結ばれることになる。

そして、私の運命は――――。



「ど、どういうこと……？」

「どうもこうも、貴様が企てた計画だろう」

罪人の証である刺青を腕に入れられ、枷と鎖で拘束されたまま、私はリアルータの港へと連れてこられる。

港では私が話をもちかけた海賊達が待ち受けており、外交大臣が戸惑う私に冷たく言い放った。

「まあ、聖女様より値は下がるだろうが……面も身体も悪くねえ、高く売れそうで何よりだよ」

「な、なんで貴方達が解放されて……！」

「取引したんだよ、おたくの国の王様と、うちの総大将がな」

海賊行為自体が大罪であり、国の宝である聖女を売ろうとした海賊が解放されてる理由。

それは、王とこの海賊達の長が交わした契約によるものだった。

あの夜の罪は流すかわりに、敵対する国の物資を奪い、また集めた情報を売ること。

そして遣いとしてやってきた者が言った条件。

それは、私を引き渡すことだった。

「ちが、あ、ああ……っ♡♡」

「下品にオネダリできたらイかせてやる、お前のGスポカリ首でゴリゴリしながら、奥までぐ〜っぱり突っ込んで、妊娠確定ザーメン、中に出してやるよ♡」

「……っ、う、ううう〜っ♡♡」

にゅぶ……♡にゅぶ……っ♡って、微かに指の腹が私のGスポットを擦りながら行き来して、甘イキしそうになったら離れる。

唇を噛みながらルスィアを見上げると、いじわるそうにニヤリと笑って、ぬち♡ぬち♡と苦瓜みたいにぱんぱんに勃起した、我慢汁だらだらのおちんぼを太ももに擦り付けてきた。

「うあ、ふ♡んあ……ッ♡♡」

「ほら昨日のこと思い出せ、陰毛絡まるまで奥までず〜っぱり……キスハメされたいんだろう？」

「あ、ん……ッ、♡ふう……ッ♡♡」

べ、と出したルスィアの舌からとろっと涎が垂れて、私の唇に染み込んで、私は耐えれなくなった。

「ルスィアとらぶはめえっちしたいからっ、私のド下品おまんこ、ぱこぼこしてっ♡♡また私のおく、新鮮なザーメンで一杯にしてえっ！」

「ああ、お望み通り、孕ませてやる……ッ！！」

みぢみぢみぢッ！ぐぶぶぶぶ〜っ♡♡ず……っぢゅっっ♡♡♡しよわわわわ♡♡

「んおおお……ッ♡おっ♡おっき、ま……っ♡おなか、やぶ、れる……ッ♡♡」

「キツ、いな……っ、はは♡もうハメ潮吹いたのか、変態、め……ッ♡」

待ちわびた私のナカに、我慢汁でベトベトになり、膨張したルスィアのおちんぼが収まった。

おあずけを食らった私のおまんこは、Gスポをゴリゴリされながらあっさりポルチオまで侵入を許し、情けなくおもらししながらいった。

「っうあ、は……っ♡あ♡はやく♡はやくっ♡私のおまんこ、ぱんぱんしてッ、お———ッ

ッ！！？」

ばぢゅばぢゅばぢゅばぢゅっ♡♡ぐぼっ♡ぐぼぼっ♡ぱんぱんぱんぱんぱんッ♡♡ぐぢゅっ♡又ヂュ〜〜ッ♡♡♡